ビジネスマンの流儀 ～シャツにこだわる ①

※343号から4回にわたって“ビジネスシーンでのシャツへのこだわり”についてご紹介します。

徳武 初男 氏 （信越支部長）
長野県千曲市に本社を置きシャツ製造販売を事業とする「フレックスジャパン株式会社」で取締役、FS事業部担当役員を務める。長年シャツ業界の一線で活躍。卸部門の営業、SE、生産管理、国内外の直販などアパレル全般に幅広い知識を持つと共に、中国のビジネス事情にも精通している。地元の信州の山々をこよなく愛し、休日は山小屋で過ごす自然派の一面も。ビジネスの話題や日々の暮らしの所感を趣味のスケッチと共に綴ったブログ『里山生活』も好評。
●フレックスジャパン株式会社 http://www.flexjapan.co.jp/
●直営ストア（プラトウ） http://www.flexjapan.co.jp/store.html
●里山生活 http://satoyama.naganoblog.jp/

エコの時代、ビジネスマンのファッションが変わる!

イラスト：徳武 初男 氏

2011年はビジネスファッションのターニングポイント

業種にもよりますが、たとえば金融業などいわゆる堅い職業では、数年前までは紺系やグレー系のスーツに白いワイシャツというような、暗黙のルールに縛られているビジネスマンも多くいました。ところがここ数年、省エネに対する意識が高まり、クールビズ、ウォームビズという言葉も浸透し、ビジネスマンの装いにも変化の兆しが見えています。

そして今年の夏、さらに節電への積極的な取り組みが求められる中で、ピシッと決めたスーツ姿ではオフィスとはいえ、なんとも暑苦しく感じました。社会全体が省エネを推進するバックグランドもあって、ビジネススーツは、これまでのパターン化されたものから状況に合わせた柔軟なものへと、ファッションも自由度が一気に広がっていったというのがこの夏以降の変化です。

しかしスーツは男の戦闘服、オシャレに気を配るのは男らしくないとばかりに、ファッションに無頓着な男性諸氏もまだまだ多いようです。確かに横並びの社会では、みんなと同じような装いをしていれば安心感がありました。ところが今は、ビジネスの世界も多様で複雑になり、個々の能力が問われる時代です。一人ひとりのビジネスの能力が問われたとき、時代を取り入れるセンスや自分を磨く感覚が求められている、それは着こなしのセンスにも合い通じるものがあるのではないでしょうか。

TPO に合った装いで自分を演出できることは、自身を主張するアイテムのひとつ。これからのビジネスマンは、オシャレのセンスを磨いておいて、絶対に損することはありません。

流行を知っておく

男性がファッションを考える上で、まず基本におきたいのが、時代によって変化する流行の基礎知識。その先端を追う必要はありませんが、その時々のスーツのスタイルが、どんな傾向にあるかを知っておく必要はあります。

スーツの流行のスタイルはルーズフィットかタイトフィットに大きく分類され、振り子のようにその間を行ったり来たりするのが大きな流れ。その中で今はタイトフィット、細身のスーツの傾向にあります。シャツ、ネクタイもスーツの流行に準じますので、その関係性が大切。基本は背広の衿のラペル（下襟の部分）幅とシャツの衿、ネクタイの大剣幅（ネクタイを身につけた際の正面幅）を揃えるということ。タイトフィットが主流の現代は、スーツの衿は細め。ネクタイも細く、シャツの衿も小さめになります。

おすすめはシャツへのこだわり

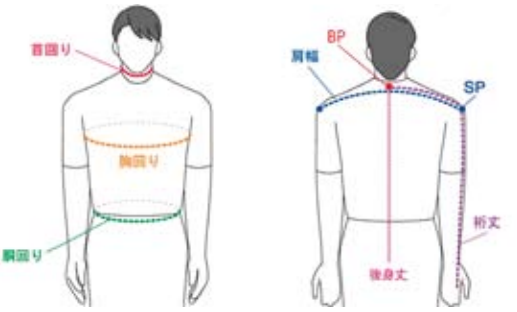
ビジネスマンの基本はやはりスーツです。そうした中で、ではどこで個性を出すか、オシャレのセンスを磨くかといえば、ぜひおすすめしたいのがシャツの装いです。

なぜシャツがビジネスマンのファッションのポイントとなるか。まずシャツはスーツのインナーなので、大きくイメージを変える、といった冒険は必要ありません。これまでファッションにあまり興味を持っていなかった方でも、最初に挑戦しやすい部分であるというのがひとつ。それでいてシャツはデザイン、カラー、素材など、楽しみ方はいっぱい。スーツと比較して価格もリーズナブルながら、さまざまな挑戦ができる魅力があります。

サイズの合ったシャツを選ぶ

シャツを選ぶとき、まずこだわってほしいことは、「自分のサイズに合ったシャツを着る」ということです。どんなに高級なシャツを着ていても、自分の体に合っていないものは見苦しいもの。自分サイズのシャツを身につけることを基本としてください。

シャツサイズの基本は首周りと裄丈（袖丈）。好みもありますが、一般的に首周りは第一ボタンを留めて指が 2 本入るくらいのゆとりがあるものを。裄丈は、まっすぐに手を下げたとき、袖口が手の甲の中心（人差し指と親指の付け根）の位置が目安です。試着した際には、後ろ姿を見て、スーツの衿より 1cm ぐらいシャツの衿が出て見えることと、袖口がスーツより 1 ～2cm ぐらいシャツ（カフス）が出て見えると、きちんと感が出ます。どうしてもサイズが合わないときは、首周りを合わせ、裄丈は短いものよりも長いものにし、カフスボタンで調整するとよいでしょう。



SP：ショルダーポイント　BP：バックネックポイント

自分のシャツサイズをしっかりと確認できたら、さらにデザインや素材、柄にも少しずつ興味を持ってほしいと思います。次回、344号ではそのポイントをご紹介します。

HUMAN HUMAN プラスは
eふぁみり もあわせてご覧ください!
eふぁみり
http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/